

C O N T E N T S

【お知らせ】 秋のおとずれ

【1】 職場を考える(76)

【有言実行のための目標公開】

【2】 生き生き施設づくり(67)

【敬老の日】

【3】 信頼のある職場(76)

【絵にもかけない美しさ】

【4】 少年硬式野球チームのコーチと目標管理(86) 【臨機応変】

【5】 連載コラム

【ラストピースがふたつ】

【お知らせ】

10月に入り、急速に秋が深まった感じがします。9月末まで、猛暑日が続いたのが幻のようです。たった2週間で、炬燵がほしい冷え込みになってきました。殺人的な暑さと厳しい冷え込みの間に、ほんのちよっぴりの春と秋。これから1ヵ月ほどの紅葉の季節を十分楽しみたいですね。(中嶋)

【1】 職場を考える(76)

【 有言実行のための目標公開 】

前号で、自分との約束としての目標の大切さを述べました。一方、自分との約束を守り切れるほどの力を持つ人は、多くありません。お正月に「今年の抱負」を宣言しながら、2月頃にはそれを忘れていくという程度の意思と自律性しか持たないのが、私たちの実態でしょう。たぶん、それを自覚しているので、私たちは自分の目標を宣言し、身近な人たちに公開して、自分の行動を縛ろうとします。「有言実行!の効果」を期待するわけですね。身近な人に宣言して、自分自身のサボり心を押さえ込んで、自律的な行動を自分に強制します。それが、私たちの自律的行動のためのノウハウのようです。

ただ、このときに、問題があります。目標を宣言する時の相手には、一定の条件が必要で、それを満たさない場合、目標の宣言には効果が期待できません。すなわち、尊敬できない上司や、馬鹿にしている仕事仲間とは、約束する気にならないし、仮に約束をしても、それを守る気になりません。「認めてもらいたい」と思う相手への宣言だからこそ、しんどくても行動しようと思えるわけです。

このような、目標公開の仕組みは、宣言する本人が「認めてもらいたい人の目線」を意識することによって、自律的な行動への動機を高める仕組みです。「身近な人」には、宣言した人を後押しする気も、応援する気も不要です。何かをする必要もありません。宣言する本人以外には心理的なコストすらかかりません。ノーコストの仕組みです。

職場の同僚や上司のよいところを見つけ出し、「認めてもらいたい」相手を身近な職場で増やしていく努力は、自分が有言実行をするための条件整備をしているようなものかもしれません。

中嶋

【2】 生き生き施設づくり(67)

【 敬老の日 】

もうかれこれ10年以上も前のことですが、敬老の日には、この〇〇区(東京23区)の区長が施設を訪れて百歳以上の入居者に記念品を手渡していたと聞きます。その慣例はがなくなった主因は、百歳以上の高齢者が増えてとても区長が直接記念品を渡せる人数ではなくなったからだそうです。

法人の3つの特養でも、敬老に日に合わせて趣向を凝らしたイベントをそれぞれの

利用者の属性に合わせた形で行います。
比較的介護度は低いユニットではミニ運動会を行って、体操や脳トレ、玉入れ、旗揚などを行いました。介護度が高いユニットでは、おやつ時に上質の日本茶を楽しんでいただきプレゼントをお渡しします。
決して大がかりではありませんが、季節の手作りの行事がこれからほぼ毎月あります。

10月のハローウィーン、11月の紅葉狩り、12月のクリスマス会、1月のお正月、2月の節分、3月ひな祭り…。

利用者の平均年齢は今年4月時点で、女性が89歳、男性が80歳で、特養での生活は平均41か月、3年半にもなります。介助なしには自由に施設の外に出ることができず、日々同じ空間で生活している入居者にとって、季節を感じる瞬間は、私たちが考える以上に貴重なときだと感じています。

パートナー・三宅敬司

【3】信頼のある職場(76)

【 絵にもかけない美しさ 】

自分が考えたことや判断したことを正しく他者に理解してもらうために説明責任を果たすことが大切ですが、一方で「絵にもかけない美しさ」とか「筆舌に尽くしがたし」というように言葉やデータですべてを説明できないことも事実だと思います。例えば人物を見極めるときに、良さがわかりやすくみんなに受けそうだがどこか深みに欠ける人もいれば、その良さをうまく説明できないがなんだかすごそうな人もいます。

採用の事務では、各段階での面接官のコメントは重要な情報で、その内容は合否や配属を判断する際の参考資料になります。しかし、ここで記述された情報は、説明可能なるがゆえに組織内で共有しやすい「わかりやすい良さ」であるという限界性をはらんでいることに注意を払う必要があります。

なぜなら、うまく説明できないけれどすごそう、というのはカンタンに言葉にできないからです。だからといって、うまく説明できないからすごそうだけれど、採用を見送るとなると本末転倒になります。

普段、客観的な説明責任を求められる場面が多い組織人にとって、その技術に長ける訓練ばかりを自己に課していると、いつのうちに、なんだかわからないけれどすごなものを見過ごしてしまいかねません。

仕事を離れて知的活動や身体活動を通じて普段使わないチカラを磨いてみたり、すぐに答えが出ないことをじっくり考える時間や機会を持つことの重要性は、今後ますます増してくるようになって感じています。

パートナー・三宅敬司

【4】少年硬式野球チームのコーチと目標管理(86)

【 臨機応変 】

秋になり、野球シーズンも終盤を迎えておりますが、大会は目白押し。
複数の大会を指導者、選手、保護者の協力のもと運営し、毎週充実した日々を過ごしております。

一方で10月に入り急に寒くなってきたことも重なり体調を崩してしまう選手も出てきております。

コロナが5類になったとはいえ、まだまだ油断はできません、また最近インフルエンザも流行りだしており、選手をはじめ保護者も含めて衛生管理、体調管理が欠かせません。

戦績はというと、新チームが8月からスタートをして、最初の大会も地区優勝を飾り、関東大会への出場を決めました。今期も好調を継続しております。来春の世界大会出場権を掛けた大会に焦点を当てながら、毎週末、練習と実践（練習試合、大会出場）を通じて経験を通じて成長を続けております。

大きなトラブルもなく順風満帆なチーム運営を行っている今日この頃ですが、監

督・コーチ・スタッフ内で、練習や大会開催についてもっと臨機応変な対応をすべきとの意見が出てきて、先般話し合いを行いました。
どのような内容かという、ウエザーニュースなどの正確な天気予報に基づいて練習や練習試合、時には大会の開催について前日の時点で中止を決められる時には中止の連絡を早々にすべきでは？という意見です。以前に比べて天気予報がピンポイントで出される最近では、前日夕刻には翌日の天気をかなり正確に読むことができるので、選手だけでなく関係者の負担も考えた判断が必要ではないだろうかということです。

これまでは、当日の朝に判断をしていたのですが、それでは保護者はお弁当を作り終えた後に中止連絡が来ることも多く、遠征の際には早朝グラウンドに集合した後に中止となるなど、色々な準備が無駄になってしまうということです。当日の朝判断することが当然と考えてきた古い考え方に対して、天気予報の正確性を材料に提案をしてきた新しい考え方、両者の意見を踏まえて出した結論は、前日時点で明らかに翌日荒天が予測される際には、“中止の連絡をする！”というもの。大会の日程消化上、困ることは想定されるが、選手のケガや体調を考えれば、無理やり大会を実施するのは本末転倒だ！ということで一度前日の判断を実施してみて、また問題が生じたら話し合おうということになりました。

伝統や習慣、慣例など歴史があれば様々な意思決定の仕方があるのは現実ですが、情報が容易に入手できる昨今、正確な情報をもとに“臨機応変”な判断をすることも必要と個人的には考えており、変えることに対して勇気を持つことも必要ではないかと思えます。

皆様、伝統や習慣に対して“臨機応変”な判断を、勇気を持って時にはしてみませんか？

イケメンコーチ

【5】連載コラム

【ラストピースがふたつ】

村上市の大毎水道組合の調査で、「裏に重要情報がある！」ことを体験しました。一つは木で作られた額。表には、水道に参加した方々の名前が書かれています。日常的に掲示されているのは、表。たまたま、掲示板を外す機会がありました。裏には、水道の設立経緯や当時の工事費などが墨書きされていました。この墨書き文書によって、工事費用が正確にわかり、他の資料と見事に整合し、他の記録の信頼性が大きく高まりました。

また、そこには和歌も書き添えられていました。それを見た集落の方が、「水神様の掛け軸の裏もこの歌があった」といわれ、お軸を引っ張り出すと、歌に加えて、水道設置を最初に言い出したと思われる14人の方のお名前が記録されていました。これで、水道を最初に言い出した人、工事費、工事のための借金、県からの補助金が全部辻褄が合いました。関係者と「人生裏表、裏が大事！」を合い言葉にすることにしました。

中嶋

◆◇MBO(目標管理)実践支援センターの考え方

MBO(目標管理)実践支援センターはMBO(目標管理)を組織内で展開するためのノウハウを蓄積し、人事担当者に提供するためのセンターです。営利事業と非営利事業を組み合わせてこの機能をはたしていくつもりです。

<http://www.mbo-mcp.com/>



編集・発行／MBO(目標管理)実践支援センター
代表／中嶋哲夫 <http://www.mbo-mcp.com/>
事務局／(株)MC&P TEL:06-4706-3311

●最後までお読みいただきましてありがとうございます。

このメールマガジンは、センターの講師陣が出会った方々に感謝の気持ちを込めて送らせていただいています。

もし、ご関心のない場合には、ご面倒ですが解除の手続きをお願い申し上げます。

●このメルマガを読んでもらいたいお知り合いを是非ご紹介ください。

●投稿または配信停止を希望される場合は、
下記「お問い合わせフォーム」にて、「MBO投稿」または「MBOメルマガ配信停止希望」とご記入の上、送信願います。
<https://secure.mcp.co.jp/contact.html>

●このメールアドレスは配信専用となっております。
返信いただいても対応はいたしかねますのでご了承ください。
ご連絡は下記のアドレスまでお願いいたします。
mbodoor@mbo.mcp.co.jp

※本メールの無断転載・複製を禁じます。